

令和2年度  
興南中学校  
入学試験問題

推 薦

国 語

令和元年12月7日（土）実施 45分／100点満点

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙は開かないようにして下さい。  
解答用紙は別になっています。
2. 問題は【一】～【三】まで3題あります。
3. 試験時間は45分です。
4. 解答は解答用紙の所定のところに記入して下さい。
5. 解答は楷書で丁寧に記入して下さい。
6. 解答用紙には、受験番号、小学校名、氏名を必ず記入して下さい。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰って下さい。





【一】 次の各問に答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧<sup>ていねい</sup>に記入せよ。

問一 次の各文の傍線部<sup>ぼうせんぶ</sup>のかなづかいにまちがいがあれば、正しく改めよ。まちがいなければ、○と答えよ。

- ① 池にこうりが張る。      ② もみぢを拾う。      ③ 金城という人が家を訪ねてきた。      ④ 転んではなじが出た。

問二 次の①～⑤の熟語の説明として正しいものを、次のア～オからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

- ① 深海      ② 投石      ③ 貸借      ④ 尊敬      ⑤ 未知

ア 反対の意味を重ねたもの      イ 似た意味を重ねたもの      ウ 上の字が下の字を打ち消すもの

エ 上の字が下の字を説明するもの      オ 「く」を「する」という意味になるもの

問三 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

わたしたちは、生活の中で、相手や場面に応じて言葉を選んで使い分けている。

例えば、お母さんが言ったことを先生に伝える場合、「お母さんが来週の面談についてうかがいたいことがあると申していました。」<sup>X</sup> という人がいる。<sup>Y</sup> X・Yのような敬語の種類を（ a ）という。

また、会社などで、来客（Aさん）の言葉を引用して発言する場合、「Aさんが申しましたように…」という人がいるが、これは「Aさんが（ b ）ましたように…」と言ったほうが適切である。

i ( a ) に入ることばを次のア～オから一つ選び、記号で答えよ。

ア 尊敬語      イ 美化語      ウ 謙讓語      エ 丁重語 ( 謙讓語 II )      オ 丁寧語

ii ( b ) に尊敬語を当てはめた場合、文として正しいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 「Aさんが(ください)ましたように…」      イ 「Aさんが(ごらんになり)ましたように…」

ウ 「Aさんが(いらっしゃい)ましたように…」      エ 「Aさんが(おっしゃい)ましたように…」

問四 次の□に身体の一部を表す漢字を一字入れて慣用句を完成させよ。

① □をつっこむ。 (意味…興味をもって何かにかかわる。)

② □にかける。 (意味…得意になり、じまんする。)

③ 背に□は代えられない。 (意味…大事なことのため、他をあきらめても仕方がない。)

※問題は次へ続く

【二】次の文章は、第53回全国大学生生活協同組合連合会による学生生活実態調査で、53・1パーセントの学生が1日の読書時間を「ゼロ」と回答したというデータをふまえたものであり、以下はこれに続く部分から始まる。文章を読んで後の間に答えよ。答えは解答题紙に楷書で丁寧<sup>かいしよ</sup>に記入せよ。

では実際、本を読まずに、何をしているのでしょうか？

読書をしていないとはいっても、文字を読んでいないわけではありません。むしろ、大量に読んでいる。その多くは、インターネットだったり、SNS（ネット上で人間関係をつくるサービス）だったりするわけです。

「本を読まなくても、ネットでいいじゃん」という人はいるかもしれませんが。

「すべてネットの中にあるではないか」と言われれば、まあ、その通りです。毎日膨大な量の情報が追加されているネット上には、最近のニュースだけでなく古今東西<sup>A</sup>のあらゆる物語や解釈や反応が含まれています。ネットの「青空文庫」では、著作権の切れた作品を無料で読むこともできます。

## ＜ 1 ＞

ですから、わざわざ本を読まなくてもネットでいいじゃないかという意見も見当違いなものではありません。

I、ネットで読むことと読書には重大な違いがあります。それは「向かい方」です。

ネットで何か読もうというときは、そこにあるコンテンツにじっくり向き合うというより、パツパツと短時間で次へいこうとします。より面白そうなもの、アイキャッチ的なもの<sup>B</sup>のヘシセン<sup>\*6</sup>が流れますね。ネット上には大量の情報とともに気になるキャッチコピー<sup>\*7</sup>や画像があふれています。II、ますます一つのコンテンツに向き合う時間は短くなってしま

最近さいじんは音楽がくもネットを介かして聴きくことが多おほくなつていますが、ネットでの「向むかかい方かた」ではイントロを聴きいていることができませない。我慢がまんできなくて次の曲うたを探さがしはじめてしままいます。そこで、いきなりサビから入いるような曲うたのつくり方かたをしていいるという話を、あるアーティストの方かたから聞ききました。

現代人の集中心力しゅうしんりきが低下ていげしていることを示しす研究けんきゅうもあります。2015年にマイクロソフトが発表はつぱつしたところによると、現代人のアテンション・スパン（一つのことに集中できる時間）はたった8秒。2000年には1秒1だったものが4秒4も縮ちぢみ、いまや金魚きんぎょの9秒より短みじいと言いいます。

③これは間違まちがいなくインターネットの影響えいぎょうでしょう。とくにスマホが普及ふくぱいして、スマートフォンで常にいろいろな情報じょうほうにアクセスしたり、SNSで常に短みじいやりとりをしたりするようになったことで、ある意味いみで「適応ていおう」した結果けつこです。このように、ネット上の情報じょうほうを読むのと、読書とくしょとは行こう為いとして全然違ちがいます。

④ネットネットで文章ぶんしょうを読むとき、私わたしたちは「読者よきや」ではありません。「消費者しょうひや」なのです。こちらが主導権しゅどうけんを握にぎっていて、より面白いものを選えらぶ。「これはない」「つまらない」とどんどん切り捨すて、「こっちは面白おもしろかった」と消費しょうひしていく感じかんじです。

消費しょうひしているだけでは、積み重ねかみかさねができません。せわしく情報じょうほうにアクセスしているわりに、どこかフワフワとして何も身みについていない。そのときは「へえ」と思おもったけれど、すぐすぐに忘わすれてしままいます。アサイ情報じょうほうは常にいくつか持もっているかもしれないが、「人生じんせいが深ふかくなる」ことことはありません。

## ＜ 2 ＞

著者ちやくしやをリス・ペクトりすぺくとして「さあこの本ほんを読よもう」といいうときは、じつくり腰こしを据すえて話を聞きくような構かまえになります。著者ちやくしやと二人ふたりきりきりで四畳半よじようはんの部屋へやにこもり、延々えんえんと話を聞きくようなものものです。ちよちよつと退屈たいくつな場面ばめんがあつても簡単かんぱんに逃にげるわけにはいきません。

辛抱強<sup>しんぼう</sup>く話を聞き続けます。

相手が天才的な作家だと、「早く続きが聞きたい」と言って寝る間も惜<sup>お</sup>しんで読書をすることもあるでしょう。しかし、ドストエフスキーと二人きりになって3か月も話を聞かされ続けたりしたら、大概<sup>\*16</sup>の人は逃げ出したくなります（やってみると最高なのですが）。実際、みんな逃げ出しつつあるわけです。

逃げ出さずに最後まで話を聞くとどうなるか。それは「体験」としてしっかりと刻み込まれます。読書は「体験」なのです。実際、読書で登場人物に感情移入しているときの脳は、体験しているときの脳と近い動きをしているという話もあります。

体験は人格に影響<sup>えいきょう</sup>します。あなたもきつと「今の自分をつくっているのは、こういう体験だ」と思うような体験があるでしょう。

辛く悲しい体験も、それがあつたからこそ人の気持ちがわかるようになったり、それを乗り越えたことで強さや自信になったりします。大きな病気になったり命の尊さを感じる出来事があれば、いまこの瞬間<sup>しゅんかん</sup>を大事に思えるようになるなど、人格に変化をもたらします。

### 〈 3 〉

自分一人の体験には限界がありますが、読書で疑似<sup>ぎじたいけん</sup>体験をすることもできます。

読書によって人生観、人間観を深め、想像力を豊かにし、人格を大きくしていくことができます。

読書よりも実際の体験の方が大事だと言う人もいます。実際に体験することが大事なのはその通りです。でも、私は読書と体験は矛盾<sup>むじゆん</sup>していないと考えています。本を読むことで「これこれを体験してみたい」というモチベーション<sup>\*17</sup>になることはありますし、それ以上に、言葉にできなかつた自分の体験の意味に気づくことができます。

実際の体験を何十倍にも生かすことができるようになるのです。



【語注】

- \* 1 膨大 非常に多量なこと
- \* 2 解釈 物事や言葉の意味を判断し理解すること
- \* 3 青空文庫 著作権が消滅した作品や著者の許しを得た作品のテキストを公開しているページ
- \* 4 著作権 著作物を、著作者が独占的に管理できる権利
- \* 5 コンテンツ 中身、特にインターネットにおいて提供される情報のこと
- \* 6 アイキャッチ 人の目を引きつけるもの
- \* 7 キャッチコピー 人の注意を引く宣伝文句
- \* 8 イントロ 楽曲の聴かせどころ
- \* 9 サビ 曲の途中の最も印象的な部分
- \* 10 アーティスト 芸術家、ここでは特に音楽家のこと
- \* 11 マイクロソフト アメリカに本社を置く、コンピュータを働かせるためのプログラムを開発・販売 はんばいする会社
- \* 12 金魚の9秒 金魚の「アテンション・スパン」が9秒であることを指している
- \* 13 普及 広く行き渡ること
- \* 14 リスペクト 尊敬すること。敬意を表すこと
- \* 15 ドストエフスキー ロシアの小説家・思想家
- \* 16 大概 たいてい
- \* 17 モチベーション 物事を行うための、動機や意欲になるもの

問一 二重傍線部 A ～ D について、カタカナを漢字に直し、漢字はひらがなで読みを答えよ。

A 古今東西のあらゆる物語や解釈      B シセンが流れる      C 12秒だったものが4秒も縮み、  
D アサイ情報

問二 本文中の I ・ II に当てはまる接続詞を次のア～オからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

ア しかも      イ そのうえ      ウ また      エ それで      オ しかし

問三 傍線部①「見当違いなものではありません」について、筆者がこのように述べる理由として適当でないものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア インターネットを利用して得られる情報が、正しいものかどうか分からないから。

イ インターネットを利用すれば、読書をしなくても大量に文字を読むことができるから。

ウ インターネットを利用すれば、毎日多くの情報を得ることができるから。

エ インターネットを利用すれば、読書するよりも手早く情報を得ることができるから。

問四 傍線部②「いきなりサビから入るような曲のつくり方」について、このような曲のつくり方をしているのはなぜか。次の a・b に当てはまる語句を、字数条件に注意し本文中から抜き出して答えよ。

ネットで情報を得ることに慣れている人々は、一つの曲に（ a 〓四字 ）と向き合うことができないため、曲を提供する側が（ b 〓三字 ）で曲に引きつける工夫をする必要があるから。

問五 傍線部③「これ」の指し示す内容を、本文中から十六字で抜き出して答えよ。

問六 傍線部④「ネットで文章を読むとき、私たちは『読者』ではありません。『消費者』なのです」とあるが、筆者がこのように表現しているのはなぜかを説明した文として、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

- ア ネットで文章を読むときには、自分たちが「面白い」と思う情報を選び取り、それ以外を除外していくから。
- イ ネットで文章を読むときには、情報の積み重ねが困難であり、身についたことをすぐに忘れてしまうから。
- ウ ネットで文章を読むときには、商品をざっと見て選ぶときのように、集中せずに全体を流し見ているから。
- エ ネットで文章を読むときには、表面的な情報しか身につけられず、「人生が深くなる」ことがないから。

問七 次の一文は本文中の ① ② ③ のうちどこに入れるのが最も適当か、① ② ③ の記号で答えよ。

これは情報やツールの問題というより、「構え」の問題です。

問八 本文において、「ネットで読むこと」と「読書」はどのような関係にあるか。次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア 等しい      イ 対比      ウ 原因・理由      エ 付け足し

問九 傍線部⑤「矛盾」の意味として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

- ア 話のつじつまが合わないこと。      イ 少しも欠点がなく完全なこと。

- ウ 物事がおおざっぱで、粗末そまつなこと。      エ 二つの間に違いがあること。

問十 本文の内容として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア インターネットを利用する人が増えたのは、現代人の「アテンション・スパン」が短くなったからである。

イ インターネットが記憶力の低下をもたらした具体的なデータがあるため、読書によって情報を得るべきだ。

ウ 読書の要点は、情報やツールではなく、情報に腰を据えて向き合うことが人格に影響えいきょうを及ぼす点にある。

エ 読書は未経験の出来事に触れることができ、人格に変化をもたらすという点で、実体験より優れている。

※問題は次に続く



【三】次の文章を読んで後の間に答えよ。答えは解答用紙に楷書で丁寧<sup>かひしよ</sup>に記入せよ。

一月、広島で開催<sup>かいさい</sup>される都道府県対抗男子<sup>たいこう</sup>駅伝。福岡を代表して出場する中学生から社会人までの世代の違う選手たちが、それぞれの思いを胸に、たすきをつないで走る。第一区を任されたのは、高校生の山田瞬太<sup>やまだしゆんた</sup>である。小学校の時の瞬太は地元でも有名な「悪ガキ」の筆頭格<sup>\*1ひつとうかく</sup>だった。そんな瞬太を小学校の教頭先生が、有明学院高校、陸上部の熊沢<sup>くまざわ</sup>に託<sup>たく</sup>した。また、瞬太の母親は全盲<sup>\*2ぜんもう</sup>であり、小学校の頃は、自分のいたずらと母親の目が見えないのはなんの関係もないのに、「お母さんを悲しませるな」「お母さんは一生懸命なのに」など、と母親の<sup>こと</sup>を持ち出されることにうつつしさを感じていた。以下の場面は、その駅伝の第一区を走る瞬太の様子を描いているところから始まる。

沿道に、中間地点と書かれたプラカードが見えて、瞬太は腕時計<sup>うで</sup>を確認した。スタートからちょうど十分が経過していた。理想的<sup>りそうてき</sup>なラップ<sup>\*3</sup>を刻<sup>きざ</sup>んでいる。

一五人くらいか。

首を動かされずに、気配<sup>きはい</sup>だけで感じた先頭集団はそれくらいだろうか。近くからは、そのくらいの呼吸音や足音がきこえる。

①これが母親<sup>おと</sup>ならば、ひとりと人数を言い当てる<sup>ところ</sup>だと、瞬太は思う。

母親には、まったく驚<sup>おどろ</sup>かされることが多い。今日はカレーが食べたいな、と思っていたら、夕食に準備されているし、トランプのババ抜きは、家族でいちばん強い。

超能力でもなんでもない。母親いわく、「瞬太は疲れていると、カレーが食べたくなる」「お父さんも瞬太もババが取られそうにな

ると、鼻いきが荒くなる」のだそうだ。母は目が見えない分だけ、耳を澄まし、匂いを嗅ぎ、指先まで神経を張り詰めている。母親にとっては、**全身が目なのだ。**

〈 中略 〉

\*4 昨年末の都大路を終えて、瞬太は母親に手紙を書いた。

母親には、ずっとわだかまりを持っていた。陸上に明け暮れていた中学時代は、それにかこつけて、あまり家にいなかった。そして逃げるように有明学院の寮に入った。

けれども逃げたからといって、わだかまりが消えたわけではない。試合に勝っても、記録が伸びても消えはしなかった。むしろ、勝てば勝つほど、強くなればなるほど、**自分のなかで大きくなっていった。**

ただし、向けられる方向は明らかに変化している。自分に向けられているのだ。同時に**あんなにとがっていた母への気持ち**が、ずいぶんやわらかくなっているのに、瞬太は気づいている。

試合で結果が出るようになって、気持ちに余裕ができたのかもしれない。寮生活を始めたことも大きい。寮生活が始めたことも大きいにしろ瞬太にとっては**面倒くさくしてしようがない掃除や洗濯**が、母親にとっては見えなくてもできることだと気がついたのだから。

ともかく母親に、ありがとうと言いたくなくなった。そして、心配ばかりかけてきたことを、あやまりたくもなかった。瞬太の新しいわだかまりは、**それらを表現できないこと**になっていた。

点字は、小学校のころ練習したことがある。ふだん母親は、パソコンの音声ガイドを使って文章を作るが、相手の目も見えない時には、やはり、点字を打って手紙を書くこともある。

家にある点字キットの使用方法を母親に教えてもらい、小さいころはよく母親に手紙を書いた。

プラスチック製の点字器に紙をはさんで固定する。そこに専用の点筆で点を打つていくと、点字で文章を書ける。母親に手紙を書くのは、十年ぶりだった。

いつもおうえんありがとう。おかげでここまでつよくなれました。でも、これからもがんばります。いつまでもげんきで。

時間がかかるので、短文しか書けなかったが、もともと文章を書くのは苦手な瞬太にとっては、ちょうどよかった。

正月に帰ったときに渡した。あんなうれしそうな母親の顔は見たことはなかった。かなうことなら、母親自身にもその顔を見せてやりたいくらいだった。

母親は手紙を指先で読んだ。さもいとおしそうに、くりかえし、くりかえし。瞬太が家にいた三日間、肌身離さずさわっていたので、寮に戻るころには凹凸\*ちゅうとつがなくなっているのではと、思ったくらいだ。

へ 中略 へ

あ、まずっ。

思わず吹き出しそうになって瞬太はあわてた。17番と28番のナンバーカードが見えているではないか。長野の後藤と兵庫の選手がいつの間にか、前に出ていたらしい。

瞬太は二人の間から前を確認する。⑥ テレビ局の中継車ちゅうけいしやから、カメラはまだはつきりと見えて安心する。

瞬太はラジオの前にいるはずの両親を思った。瞬太の家では、応援するときには、テレビの音を消し、ラジオで音声を補うスタイルだ。そして父がときどき映像を説明する。こうすると、まるで現地にいるみたいだと母親は目を細める。⑦

注目選手になると、アナウンサーも情報を持っていて、名前や様子を細かく伝えてくれているはずだ。



瞬太は先ほど自分にかげられた、沿道からの応援を思い出し、こぶしに一瞬力をこめた。都大路で結果を出した自分も、おそらく注目選手になっているのだ。ラジオもきちんと伝えていよう。

残り一キロの看板が見えた。

さあ、ここから、連呼してくれ！おれの名前を絶叫してくれ！

瞬太は、スパートをかけた。

【まはら三桃『白をつなぐ』（小学館）より一部抜粋 ※問題作成の都合上、一部改変】

【語注】

- \* 1 筆頭格 そのグループにおける代表的人物
- \* 2 全盲 両眼ともに完全に見えなく、明暗もわからない状態
- \* 3 ラップ ラップタイムの略。陸上競技の中・長距離走で、トラック一周、または、一区間ごとの所要時間
- \* 4 昨年末の都大路 「全国高等学校駅伝競走大会」の舞台となっている京都の駅伝で、昨年瞬太は五位でもらったすきを二位でゴールした
- \* 5 凹凸 表面がへこんだり、出っばったりしていること
- \* 6 スパート 競争・競泳などで、ゴール間近で全速力を出すこと

問一 傍線部①「これが母親ならば、ぴたりと人数を言い当てる」とあるが、これを可能にする母親の特徴が書かれている、最も適当な一文の最初の五字を答えよ。

問二 傍線部②「全身が目なのだ」とあるが、ここで使われている表現技法として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

- ア 対句法                      イ 反復法 はんぷく                      ウ 体言(名詞)止め                      エ 比喩法 ひゆ

問三 傍線部③「自分のなかで大きくなっていった」とあるが、この部分の主語を答えよ。

問四 傍線部④「あんなにとがっていた母への気持ちや、ずいぶんやわらかくなっている」とあるが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

- ア 試合に勝ち出し、記録が伸びてきたことで気持ちに余裕ができ、本来の自分の実力に気づいたから。  
イ 寮生活を始めたことで、母親と適度な距離を保つことができ、うっとうしさを感じなくなったから。  
ウ 面倒くさい掃除や洗濯が、目の見えない母親にとっては見えなくてもできることだと気づいたから。  
エ 勝てば勝つほど母親へのとがった気持ちが大きくなり、考えてもしようがないことに気づいたから。

問五 傍線部⑤「それら」について説明した次の文章の a～d に当てはまる語句を、字数条件に注意し本文中から抜き出して答えよ。

瞬太は ( a || 二字 ) に対し、( b || 五字 ) と伝え、( c || 二字 ) かけたことを ( d || 六字 ) 思っていること。

問六 傍線部⑥「テレビ局の中継車から、カメラはまだはつきりと見えて安心する」とあるが、その理由として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 前回果たせなかった優勝を今大会で果たすべく、努力してきた集大成としての走りを、より多くの人に見続けてもらうことができるから。

イ 母のことを思い出している間に、自分の順位が分からなくなっていたが、カメラが見えたことでまだ先頭集団にいたことが分かったから。

ウ テレビとラジオの前で応援する両親に、中継で自分の名前や様子を細かく伝えてもらうことで、まだ頑張りを見てもらえると思ったから。

エ テレビに映ることと一位になることを目標にしていたので、順位が下がってあわてたが、まだテレビには映っていることを理解したから。

問七 傍線部⑦「目を細める」とあるが、ここでの使い方と同じ用例を含む文を、次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 彼は道路にごみを捨てた少年に対して、目を細めた。      イ 私はカーテンを開け、まぶしい光に目を細めた。

ウ 祖母は無邪気に遊ぶ孫を見つめて、目を細めた。      エ 彼女は黒板を板書するたびに、目を細めた。

問八 本文の主題として、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えよ。

ア 小学校の頃は「悪ガキ」で母親や学校の先生にも迷惑をかけていた瞬太が、陸上や寮生活を始めたことがきっかけで、周囲の人や学校の先生にも素直に接することができるようになったという心の成長の様子を描いている。

イ 小学校の頃は周囲にいたずらばかりしていた瞬太が、陸上をはじめたことで心身ともに成長し、それに感動している家族の様子を描いている。

ウ 地元でも「悪ガキ」として有名な瞬太にとって、母親はいつでも応援してくれる存在であり、心身ともに成長した今、母親に感謝の気持ちを伝えたいと思いつながら走っている様子を描いている。

エ 地域でも「悪ガキ」として有名な瞬太に対し、周囲はあきれた様子だったが、陸上をはじめた瞬太が良い結果を出すようになったことで、周囲の態度が変わっていく様子を描いている。

※問題は以上

